

早稲田 岳文広報

第五十号

発行：早稲田大学岳文会OB会
発行日：平成23年10月

活動報告



夏合宿報告

無事、夏合宿を終えて

52期 藤田道太郎

上高地へ通ずる県道にて土砂崩落事故が起こったのが六月の二十三日。当時の私といえば、連日がもうてんやわんやのお祭り騒ぎ状態でした。三月十一日といえば東北関東大震災の影響を受け、大学当局の決定により大学開始はGW後！それに合わせて新歓企画は全面的に見直し！キツキツのスケジュールの中、なんとか決行した新歓企画には一女が全然来ない！来るのはむさい男共ばかり！一年生はほとんど山経験もなく、新歓山行に参加できなかった新入生も大勢いる中、6月はいったいどこの山に向かえばいいのだろう、そもそも装備すらほとんど揃っていない！どうしようどうしようと狼狽しつつも連日誕生日や定例会後の飲み会にあけくれ、合間を縫っては会議、会議、会議…、やっとの思いで悪天候のなか大菩薩峠企画を終えた！矢先のことでした。六月二十三日。この日我々はジョナサン高田馬場店にて、夏合宿における各班サブリーダーを、二年生の中から一体誰をチョイスすべきか、激論を交わしておりました。ふと休憩をとり、携帯電

話を開いて見たYahoo!のトップニュースが

「上高地で土砂災害、627人が孤立 長野」

ああ、終わった。なんてこった。やっとの思いで新歓を乗り越え、辿り着いた初の夏合宿会議で目にしたトップニュースは私の戦意を喪失させるのに十分すぎる破壊力を持っておりました。果たして集中式の日までに復旧作業は終わるのか？よもや今年は上高地小梨平が使えないなんてことは…などと憶測が飛び交うも、夏合宿の用意をしないわけにもいかず、着々と時は過ぎていき、なんとか夏合宿決行できそうだ！やっとな！などと喜んでみれば、今度は八月終わりに台風が直撃するのであります。悪天候の中、雲の平班、黒部班等々…続々と撤退・停滞が起きる、天候の回復する気配はない、果たして集中の日取りまでに、皆が小梨平に下山することはできるのか？…不安は募るばかりです。

八月二十四日。連日雨が続く北アルプスで、この日だけが、奇跡的に好天に恵まれました。私のいる班は、朝三時に起床し、常念小屋より殺生ヒュッテを目指します。その途上、東大天井岳付近にて、巻き道より稜線へ出ると、開けた視界の中、東に見える安曇野の街が真っ赤に染まっておりました。朝焼けというやつでしょうか。後ろに振り返れば、赤く染ま

った槍ヶ岳が見えました。ふと眼を落とせば、雨上がりの、虹。「わぁ綺麗。夏合宿に来て、良かったです。」と一女。ああ、この瞬間のために、私は今まで一年間幹事長を務め、沢山の準備を重ねて来たんだろうなあ、と。そう思いました。

様々な困難に直面しましたが、おかげさまで今年も無事に夏合宿、及び集中式を執り行うことが出来ました。これもひとえにOBの皆様への支援があればこそ、と痛感しております。(とくに今年は悪天候の中の山行が多かったので、昨年度ご支援戴きました新品のテントには大変お世話になりました。かさねがさね、お礼申し上げます。)きたる十一月、OB総会にて皆様にお会いできるのを心待ちにしております。その頃には幹部交代も終わり、岳文会も新しい時代を迎えていることでしょう。ぜひ今後とも、現役岳文会を、宜しくお願い致します。

文学散歩

9月：三鷹・井の頭文学散歩

13期 轡田英夫

開催日時 9月25日 午後1時～4時半

参加者 11期 細山 12期 片山、副盛、轡田 13期 日下
14期 田村 12期 奥村(後半のみ)

当日は暑さも和らぎ街歩きには程よい天気であった。いつも参加する人たちの中で都合がつかない人がいたので、いささか人数の少ない文学散歩になった。

三鷹駅の北口に出て、国木田独歩の「山林に自由存す」と書かれた武者小路実篤書の詩碑がある。ここら辺りは独歩の「武蔵野」に登場する雑木林があったところだ。駅のロータリーの植え込みに、北村西望作の「世界連邦平和像」の彫刻もある。

線路に沿って武蔵境方面に進むと跨線橋がある。これは昔からのもので、太宰はよく子供を連れしたり友人を連れしたりして散歩したところだ。現在でも電車を見るに格好のところである。

三鷹駅南口のほうに戻る。禅林寺通りに入る手前角に中鉢屋跡がある。太宰の仕事場のひとつで、「ヴィヨンの妻」はここで書かれ、「朝」はこの部屋が舞台となっている。禅林寺通りをまっすぐ行って突き当たったところがお寺である。禅宗の黄檗宗の寺で、山門が竜宮城のような形をしてちょっと変わっている。大きな銀杏の木の下に有名な森鷗外の遺書の碑がある。一切の榮譽を辞し、石見の国の森林太郎として死にたいという意味の事が書かれてある。誰かが、「おれも一切の榮譽はいらない」とか言ったが、「お前は何ももらえない」という周りの声。墓地の中には森林太郎とのみ書かれた墓と一族の墓。その斜め向かいに太宰治の墓がある。太宰が自分の墓は森鷗外の近くに作ってほしいと望んでいたからである。このほか、三鷹事件の慰霊碑もある。

禅林寺を出て左に曲がったすぐの所が、瀬戸内寂聴が東京に出てきたばかりの頃住んでいた所だ。そのまま少し歩いて左折して中央通りに入る。この通りには山本有三、太宰治、

武者小路実篤そして三木露風の文学碑が点在している。駅の近くまで戻ると、太宰ゆかりの場所が点在する。太宰が編集者との打ち合わせに使った「うなぎ若松屋」跡、仕事場として借りていた「田辺肉店離れ」跡、ここで「犯人」を執筆した。太宰が通った小料理屋であったことで名がついた「太宰横丁」、2階を仕事場として使っていた小料理屋「千草」跡、そして心中した相手の山崎富栄が2階に住んでいて、太宰が仕事場としても使っていた「野川家」跡。昭和23年6月13日夜半ここから二人で玉川上水に向かったのである。次は太宰がよく使っていた「伊勢元酒店」跡に行く。現在ここは太宰治文学サロンとして多くのファンが訪れている。ここでビデオを見たりしてしばし休憩。

ここから太宰一家が住んでいたところに向かう。太宰の旧居は今では全く跡形もない。ただ、庭に植えられていた百日紅がすぐ近くにある井心亭という三鷹市の施設に移植されている。太宰の旧居があったところは、その井心亭の向かいの路地を入った突き当たりだが今はその面影を残すものは何もない。井心亭から玉川上水に向かう。玉川上水に突き当たった所からいくらか三鷹駅寄りに戻ると、道の傍らに玉鹿石と書かれた石がある。この向い側あたりで入水したのである。玉鹿石は、太宰の郷里の金木町産のもので、太宰を偲んで石碑としたものである。玉川上水は、今でこそちょろちょろとしか流れていないが、往時は人食い川と称せられるほど水量が多く危険な川であったとのことだ。

ここから少し下流にくだると山本有三記念館がある。門の脇に路傍の石と書かれた案内板がある。そこに石が置いてあるが、とても路傍の石という代物ではなく路傍の岩と言ったほうが似合っている大きな石がある。中に入ると立派な洋館である。山本有三が住んでいた建物がそのまま残っている。建物の裏側には、芝生の庭や、池を配した庭園があり豪華な屋敷である。

上水沿いに下流に向かってしばらく歩いて、太宰と山崎富栄の遺体があがった場所に向かう。井の頭西園・小鳥の森を通って行くのだが、森の中を上水が流れていて大変気持のよいところだ。森をぬけると、明星学園高等学校の建物が見えてくるが、その正門あたりに二人の遺体が上がった。入水してから6日後の6月19日で、入水した時二人を結んであった赤い紐に結ばれたままであったとのことである。

ここから来た道を戻り井の頭文化園のほうに向かう。途中の幸橋から入ったすぐ左側に、武者小路実篤が住んでいたのだが標識もなにもないのでわかりにくい。さらにすすんでいくと、道路沿いに吉村昭・津村節子宅があるはずだが未確認。4時に井の頭文化園入口につき、長崎の平和記念像を作った北村西望のアトリエや、野口雨情の書斎「童心居」を見るために入園しようと声をかけたが、疲れた、早く飲みたいという声があり断念する。井の頭公園入り口という石柱を出た右側に、大仏次郎が新婚時代を過ごしていた。亀井勝一郎宅も近くにあったはずだが確認できなかった。

ご要望に応じて、吉祥寺駅近くの飲み屋に入る。1時から4時30分、12,000歩の文学散歩であった。

千葉（海の日）

7月：「海水浴企画」

43期 緑川 正和

7月23日荒天。強風。海水浴には適切ではない気候の中、川浪（45期）小島（50期）と合流。銚子方面へ向かう途中、白石（43期）夫妻と合流しそのまま島武水産で地魚の寿司、地球の丸く見える展望台で荒ぶる千葉の風を堪能する。

九十九里浜のコテージに戻ると江連（43期）が我々の到着を待ちわびていた。

後発隊として小西（45期）、大鹿（47期）石井（48期）、が到着。

地酒「梅一輪純米大吟醸」、地元でとれた魚と思い出話につ

いつい酒が進む。傍らには気心の知れた同期、後輩。学生時代に高田馬場界隈の小さな居酒屋で繰り広げられた空気が蘇る。

翌日は嘘のように快晴に見舞われ、山武市は本須賀海水浴場にて海を堪能することができた。湘南あたりのちゃらちゃらした海とは違う。質実剛健を地でゆく千葉の海である。普段泳ぐことのない諸兄においても千葉を堪能することができたことかと思料する。

当然ながら、常日頃は仕事上のコミュニティのなかでやりとりすることに終始しがちである。今回、通常の山企画とは毛色の違うものであったが、今回の企画で久しぶり話ができ、あらためて岳文で過ごす時間の贅沢さを感じた。

2011年度（後期）岳文OB会 行事計画

時期	実施日	行事内容	コース概要	担当者
11月	11/13 (日)	ハイキング 矢倉岳	新松田駅＝矢倉沢～白山神社～矢倉岳～清水越～足柄万葉公園～足柄の関跡～地藏堂＝新松田駅 (行程3時間30分)	日下 (13期)
	11/26 (土)	総会		—
12月	12/4 (日)	ハイキング 三浦アルプス	J R 田浦駅～田浦梅林展望台～乳頭山～観音塚～仙元山～葉山教会～風見橋バス停＝J R 逗子駅 (行程4時間)	堤 (5期)
	12/17 (土)	就職懇談会		—
2月	2/中旬	スノーシュ	蓼科高原小田山荘 詳細は、次回の広報に掲載	小田 (7期)

共通ルール

- ①ハイキングは、昼食（お弁当）、行動食、装備など各自準備ください。
- ②日程は、変更、中止があります。参加の場合は、事前に必ず連絡願います。
- ③ご家族、友人、現役の方の参加も大歓迎です。

11月：O・B総会

O・B会会長 轡田英夫

2011年のO・B会総会を下記の要領で実施いたしますので、皆様お誘い合わせの上お集まりいただきたくご案内申し上げます。

記

1. 日時 11月26日（土）
午後1時30分 受付開始
午後2時 開会
午後3時30分 閉会（予定）
2. 場所 大隈会館 3階
3. 議題
 - 1) 2011年会計報告、活動報告、山小屋基金会計報告、岳文基金会計報告、会計監査報告
 - 2) 2012年予算案、活動予定案について
 - 3) 山小屋基金の取り扱いについて
 - 4) 現役からの報告
 - 5) その他

なお、議事終了後、講演会をおこないます（午後2時40分ごろから）

- ・テーマ 「51年目のスタート～命をみつめて～」
- ・講師 3期 上村正剛氏 岳文会創立者

懇親会のご案内

総会終了後懇親会をおこないます。懇親会のみ参加の方も遠慮なくおいで下さい。

1. 場所 早稲田大学 戸山カフェテリア（予定）
文学部のスロープを上がって左手にあります
2. 時間 午後5時半から2時間程度
3. 費用 5,000円
(但し、2012年分会費3,000円を申し受けますので8,000円ご用意下さい。できるだけおつりの無いようにお願いします。)

なお、懇親会の場所等で変更があるようでしたら、現役の岳文会ホームページに掲載いたしますのでご確認ください。

申し訳ありませんが、総会が終了後懇親会まで多少時間が
ございます。ご希望の方には、

- ① 夏目漱石を訪ねる文学散歩—漱石生誕の地から亡くなっ
た場所を訪ねて—
- ② 学生による構内ガイドツアー—演劇博物館、会津八一記
念館、部室探訪等—
- ③ レストラン「西北の風」やOBロビーでのご歓談

等計画しておりますので、ご自由に参加していただければと
思っております。

12月：就職懇談会

O・B会会長 櫻田英夫

今年の就職懇談会を下記の要領で行います。

多くのO・B、O・Gの皆様のご協力をお願いします。就職
活動に当たっての心構えや、就職活動を始めるにあたってど
のように活動したらよいか、来年度の就職をめぐる状況など
を中心に懇談したいと考えています。

就職活動を近年された若手の皆さんの参加をお待ちしてい
ます。

1. 日時 12月17日(土) 午後1時～4時
2. 場所 大隈会館 3階

就職懇談会終了後、懇親会を行います

1. 場所 早稲田大学 戸山カフェテリア
文学部のスロープを上がって左手にあります
2. 時間 午後5時半から2時間程度

なお、懇談会終了後懇親会まで多少の時間があります。構
内ガイドや、夏目漱石関係の文学散歩等の企画をいたします
のでご参加ください。

今後の山行活動

◇**矢倉岳** (歩行時間：3時間30分)

1. 開催日 : 11月13日(日)
2. 集合 : 小田急新松田駅改札口 午前8時30分
3. コース : 新松田駅＝矢倉沢～白山神社～矢倉岳～足柄
万葉公園～地藏堂＝新松田駅

◇**三浦アルプス** (歩行時間：4時間)

1. 開催日 : 12月4日(日)
 2. 集合 : JR横須賀線田浦駅改札口 午前10時
 3. コース : 田浦駅～田浦梅林展望台～乳頭山～観音塚～
仙元山～葉山教会～風見橋＝逗子駅
 4. 案内人 : 堤 勝彦氏(5期)
- 詳細は、岳文広報第四十九号に掲載

◆山行の申込先

- 矢倉岳：11月9日(水)、三浦アルプス：11月30日(水)
日下(13期)まで
- ・メールアドレス：
(岳文広報第四十九号のアドレスを変更)
 - ・携帯電話 :

OB 会幹事会からの連絡

山小屋建設基金の取り扱いについて

前回の広報でもお伝えしましたが、山小屋建設基金は基金
創設後10年を経過しましたが積み立て金額は28万円にも達
していません。このままでは山小屋の建設は不可能かと思
われます。幹事会としては、この基金を50周年時に創設した
岳文基金と統合し、岳文会全体の発展のために一体的に管
理・運営したいと考えております。このことについて、11月
8日までに幹事会までご意見をお寄せください。

平成23年度年会費について

45期 小西麻子

早いもので50周年記念式典より1年の歳月が経ちました。
今年度は既に約150名の皆様より会費の納入をいただいで
おります。通信欄にて住所変更や氏名の表記の訂正等、様々
なご指摘をいただきました。対応が遅れご迷惑を多々お掛け
し大変申し訳ございません。今後ともご連絡をいただければ幸
いです。今回の会報では現時点で会費をまだ納入いただいで
いない方にのみ会費納入用紙を同封させていただきました。

確認相違、ご不明な点がございましたらお手数ですが事務
局までご連絡をいただければと思います。今年度の会費は
11/4(金)までの受付分とさせていただきます。平成23年3
月卒業生に関しては今年度分の会費納入は不要です。OB総
会出欠席はがきのみ返送をお願いします。以上、よろしくお
願い申し上げます。

- 1) 一会員につき年額3000円
(夫婦会員の場合には一世帯につき年額3000円)
- 2) 本年は平成22年12月21日を平成23年度開始日とする
- 3) 振込口座
[当座] 00230-8-30118
又は [普通] 店番008 口座番号6690731

同封の赤い振込用紙で郵便窓口もしくはゆうちょ銀行ATM
でお振込みいただくと手数料が無料です。ゆうちょ銀行備え
付けの青い振込用紙もしくは他行からのお振込は手数料がか
かりますのでご注意ください。